

# 真下 紀子

困難のりこえ、ともに生きる

はつらつ道政レポートNO.407 2026.2.22 発行 真下紀子事務所



韓国釜山外国語大学の学生と交流



## 子どもの養育・療育に支援充実もとめる 現場に学び、議会質問へ

子どもの現状、現場で学ぶ  
道は、道内初の里親支援センター「みなほつけ」を旭川市に設置。社会福祉法人「旭川育児院」が運営し、旭川児童相談所管内の里親を支援する活動を始めました。子ども政策特別委員会は12月に視察し、大廣泰久理事長、多田院長から現状と課題について説明を受けました。

児童福祉法の改正で「子どもの権利の擁護」「子どもの意見を尊重」「子どもの最善の利益を考慮」した支援と確保が求められています。家庭養育優先の原則を推進しながら里親自身の悩みに答え、子どもの虐待や貧困の世帯間鎖を断ち切ることにつながる効果も期待されています。真下議員は、「子どもを育てる力や子ども自身の育ちにくさ」という厳しい環境にある中でスタートした事業に惜しみなく応援していきたい」と語り、1月の特別委員会で質問しました。

12月17日に旭川育児院等を視察した真下紀子議員は、療育相談や療育手帳の申請から児童相談所を経て交付までに半年以上もかかっていて、日々成長する子どもの発達に間に合っていません。子どもの発達を診断する専門の医師が不足し、診断医時間がかかるっている問題があります。

真下議員は、知的障害のある子どもが増えている中で、子どもの発達を診断できる専門医の養成は政策的に進める必要性があると指摘し、療育手帳の迅速な交付を求めました。

十代の妊娠・出産に支援を  
思いがけない妊娠で、深刻な悩みを抱えている10代の女性からの相談が増加しています。真下議員は1月15日の子ども政策特別委員会で質問

道は、思いがけない妊娠などの悩みを「にんしんSOSほっかいどう」に相談している件数が、2024年度から4千件を超え、25年度は、11月までに4373件と答えました。

道内保育所で特別支援保育を受け入れているのは、2023年度660施設・2339人。その後年々増加しています。真下議員は、国からの財政支援が不十分なため受け入れをあきらめている保育園もある実態を訴え、1月15日の子ども政策特別委員会で質問。

早くからの適切な療育・保育は障害のある子どもの成長を大きく支えます。一人ひとりの発達過程や障害の状態にあわせて適切な保育をするためには、保育士を増やす必要があります。

真下議員は、必要な保育士の配置をしようとしても財政措置が不十分なため、受け入れられない保育園もあると指摘。実態に応じた財政支援の実現を求めました。道は、財政措置の充実を国に要望していると答えましたが、今も改善されていません。

### 特別支援保育 実態に応じた財政支援を

の必要性や心身へのダメージ、ケアの必要性を強調しました。



# 経済常任委員会で質問 AI・DX施策にリスク対策求める



## AI自身も認めるリスク

1月14日の経済委員会で、AI・DX施策について、道の計画等に基づく具体化と実現性、AIのリスク対策の考え方などを質問しました。

道がめざすAI・DX施策の姿はあまり漠然としていて、日進月歩のデジタル技術の進展を踏まえた計画の見直しが必要です。特にAIのリスクに対する認識と対策・ルール作りが必要と強調しました。

真下議員は「AI自身が、個人情報や機密情報の漏洩、ハルシネーションによる誤情報の拡散、AIの学習データの偏りによる差別や偏見の助長、悪用リスク、電力と水の大量消費による環境への影響などをリスクと認識している。データ保護の徹底や人間による適切なガイドラインの策定を求めている」と指摘し、リスク対策をとるよう求めました。

道は「必要な取り組みを検討していく」と答えました。

## 東神楽・東川発達支援センター視察



子ども政策特別委員会は、東神楽町・東川町が共同運営する子ども発達支援センター「おひさま」を、12月に視察しました。保護者からの訴えや相談、健診で保健師が気づくことやその後の具体的支援について具体的に伺いました。

一見遊びに見えることも目的があって、個別指導の一環になっていることや、移住の多い両町ならでは相談・支援の特徴がありました。ひとり親やステッ

プファミリーの視点などきめの細かい相談対応にとりくんでいるとよく伝わってきました。療育手帳が交付される前から早期療育を始められ、職員が熱心に対応。人口規模が小さな自治体が共同運営を選択して単独で運営が難しい課題に、知恵を発揮して取り組んでいることがわかりました。



経済委員会は1月、石狩市・苫小牧市・室蘭市に所在する最先端技術を使う企業、苫小牧工業高等専門学校等を視察しました。

石狩市の「シンセメック」は、世界に一台のオーダーメイト機械を自社一貫生産体制で自動省力化装置を生産しています。地域産業の困りごとに応じた高い技術力と人、アフターケアも自社対応していました。協同ロボットかぼちゃの乱切り機は、上川管内でも使われているそうです。



苫東に進出した「カネカ」は、悪玉コレステロールとフィブリノーゲンを吸着除去する治療に使う医療機器を、ほぼ自動で24時間365日製造している工場。体外に出した血液を吸着型血液浄化器に通し、LDLコレステロール、フィブリノーゲンを吸着し、血液流動性を改善することにより閉塞性動脈硬化症の末梢血液循環を改善。難治性潰瘍の治療目的などに使うこと。治療時間は一回約2時間程度、3か月間で24回まで保険適応に。欧米、カナダ、シンガポールでも認められ、製品の8割は輸出。吸着体ゲルの合成と滅菌に時間をかけ、品質管理に余念がありません。製品が軽量なので必要電力は多くならないことです。

道議会 道政へのご意見・ご要望をお寄せください

真下紀子事務所 旭川市3条16丁目左7号 TEL0166-20-0808 FAX0166-20-1616 m.noriko.office@gmail.com

